

奥州の文化と雄大な自然を訪ねて

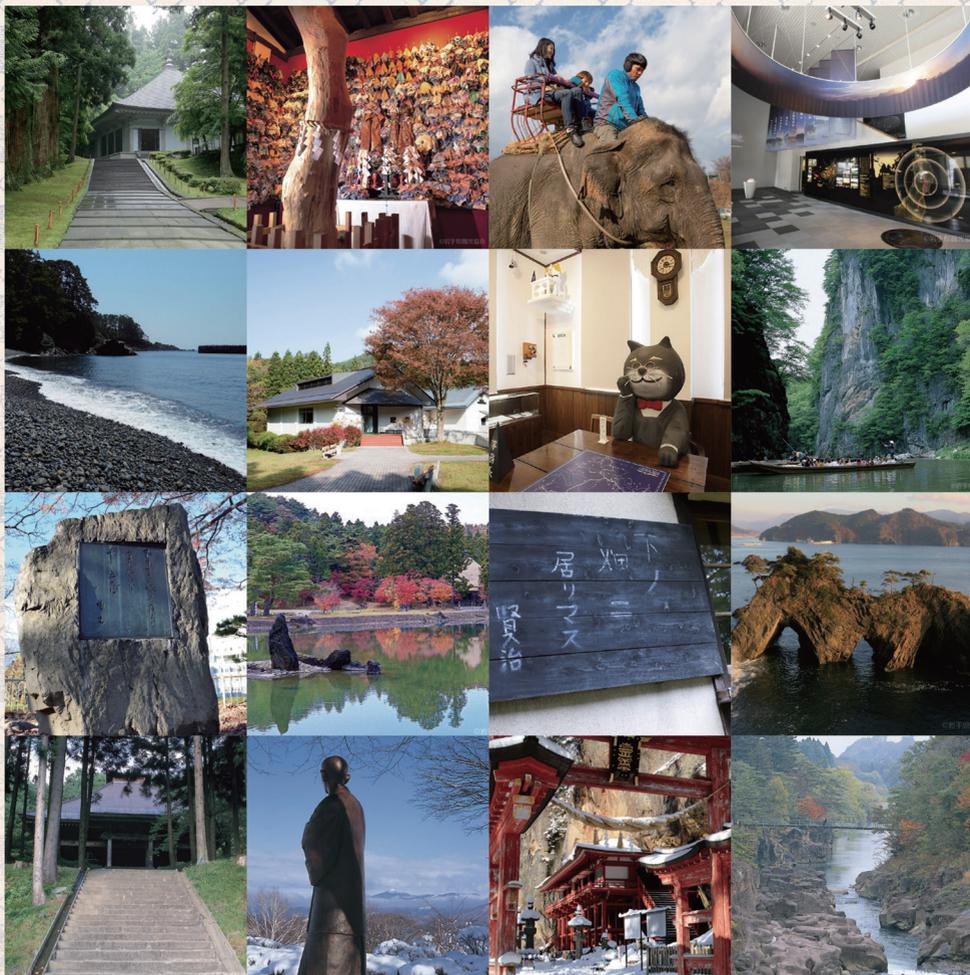
散策&観賞

多数の画像と充実した
コラム・ガイドの
事前学習本！

岩手 (南部地域) 編

～修学旅行に行く前に読む本～

最新版





散策&観賞岩手(南部地域)編 ~修学旅行に行く前に読む本~

序	2
岩手県の風土	4
岩手県全図	6
中尊寺境内図	7
平泉・奥州詳細図	7
問合せ先	40
奥付	40

一関・平泉

厳美溪	8
狛鼻溪	8
達谷窟毘沙門堂	9
平泉文化史館	9
中尊寺	10
毛越寺	16
高館義経堂	16
平泉文化遺産センター	17
岩手サファリパーク	17

平泉文化（奥州藤原氏のおこり／平泉文化の特徴／藤原三代の文化遺産） 12

奥州

高野長英記念館	18
奥州市伝統産業会館	18
後藤新平記念館	19

花巻

宮沢賢治記念館	20
高村光太郎記念館・高村山荘	26

宮沢賢治
（宮沢賢治のプロフィール／賢治の作品） 20
光太郎の軌跡 27

遠野

遠野市立博物館	28
とおの物語の館	29
伝承園	29

遠野物語 30
東北の民間信仰 32
石川啄木 33

陸中海岸南部

碓石海岸	37
東日本大震災津波伝承館 「いわて TSUNAMI メモリアル」	38

リアス海岸の形成 39
プレートテクトニクス 39



1、自然

岩手県は1万5280 Km²と日本一広い面積を持つ県だ。どれくらい広いかというと岩手1県で四国4県の面積と同じくらい、また外国でいえばベルギーのほぼ半分に匹敵するというから、その広さは相当なもの。

日本一大きい県岩手には、本州一大きい町・岩泉町もある。いずれも岩がつくところが面白い。東に北上山地、西に奥羽山脈が南北に走る岩手の地形から生じた名であろう。岩手の地名の由来にはいくつかの説があるがその代表的なものは、盛岡城下北方にある三ツ石神社にちなんだもの。昔この地に羅刹らさつという鬼がいて、乱暴を働くので困った里人は、三ツ石の神に願って鬼を石に縛ってもらった。鬼は二度と里には来ませんと約束の手形を岩に押しつけて釈放してもらったという、そこから岩手や不來ふきたという岩手の古い呼び名が生じたというのである。三ツ石神社のご神体は高さ3mにも及ぶ三つの花崗岩。岩や山そのものを信仰する古い形態を伝えている。

岩手のシンボル岩手山は、県の西を南北に走る奥羽山脈の最高峰である。奥羽山脈には岩手山のほかに十和田八幡平国立公園や栗駒国立公園・焼石連峰・駒ヶ岳などが属し、新生代第3紀の基盤の上に噴出したごく新しい火山で出来ている。今も活動している火山帯だけに、繋つなぎ・花巻・湯本・湯川すかわ・須川など温泉が多いことも特徴だ。

それらに対し県の東を南北に縦走する北上山地は、中生代などの古い地層からな

り、隆起準平原である。外山そとやま・早坂はやさか・平庭ひらなどの高原が続き、馬の産地に適している。南部藩（盛岡藩）は馬の生産を奨励し、馬と人間が一つの屋根の下に暮らす「南部曲り家」も生まれるなど、馬と密着した生活がみられた。今では馬に代わって牛を飼う所が多い。父なる山・岩手山に対し、母なる川・北上川は岩手・二戸両郡界の七時雨山しちしぐれに源を発し、南流して石巻湾に注ぐ延べ250kmに及ぶ大河だ。昔から船運が発達し、要所要所に中継ぎの港を栄えさせてきた。平泉の黄金文化を築いたのも、この北上川を利用した交通網を抜きにしては考えられない。

岩手の経済・文化・農業に大きな恵みをもたらした北上川は、一方でしばしば大洪水を起こして下流の人々を苦しめた。しかし近年では洪水調節、農業水利、発電などの多目的ダムが次々と建設され、洪水の危険は消えたといえるだろう。

一方太平洋岸にはプレートテクトニクスと呼ばれる地殻の移動と、地殻のもぐり込み現象がみられる（詳細はコラム39頁参照）。2011年（平成23年）3月11日の東日本大震災津波では、県内各地（主に、南から陸前高田市、大船渡市、釜石市、上閉伊郡大槌町、同郡山田町、宮古市など）で深刻な被害が発生した。

津波は、1896年（明治29年）、1933年（昭和8年）の三陸地震津波、1960年（昭和35年）のチリ地震津波を凌ぐ大きなもので、特に沿岸地域における人的、物的被害は甚大なものとなった。

県内の人的被害は、死者4,672人、行方不明者1,122人、合計5,794人にも及んだ。

家屋被害は、全壊・半壊を併せて26,077棟にのぼり、そのほとんどが津波による被害となっている。

※死者数、行方不明者数、家屋倒壊数はいずれも平成29年2月28日現在のもの。

2、気候

広い面積をもつ県だけに、気候の違いが大きい。秋田県寄りの日本海側では、さほど冷え込まないが、半年近くも雪に閉ざされる豪雪地帯である。それに対し三陸海岸のうち陸前高田市や大船渡市は亜熱帯植物が茂り、寒中にツバキが咲く程暖かい。岩手の湘南の名もあるほどだ。ところが稲の開花期に、オホーツク海にある寒気団が衰えず、寒流の親潮の上を通して冷たい風が北東から吹きつける年がある。これが“やませ”で太平洋岸に異常低温をもたらし、稲が実らないため凶作となる。

一方北上川流域と北上山地は、積雪量は少ないが、冷え込みが厳しい。1月の平均気温が秋田で-0.1℃の時、盛岡市で-1.9℃、北方の青森が-1.2℃という記録を見ても、岩手県内陸部の冷え込みの厳しさが感じられる。

また春から夏にかけて、フェーン現象が起こり、融雪洪水や大火に見舞われることが多い。

3、自然公園と動植物

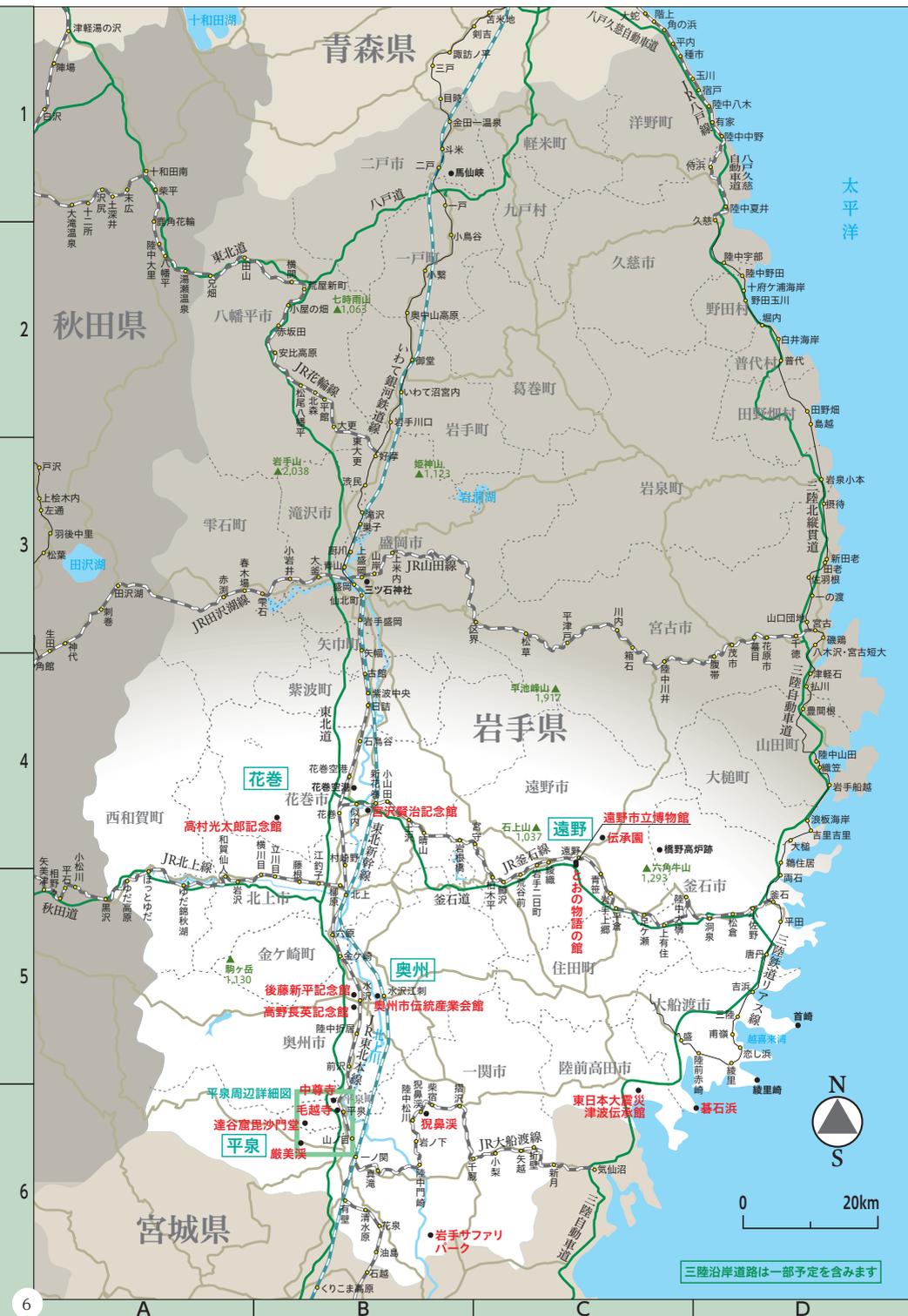
岩手県の風土は寒冷で厳しいものがあるが、反面県全体が自然公園と言っても良いほど、美しい自然に恵まれている。

国立公園が三陸復興国立公園と十和田八幡平国立公園の2つ。国定公園が栗駒国立公園と早池峰国立公園の2カ所。そして花巻温泉郷・湯田温泉郷・久慈平庭・外山早坂高原・折爪馬仙峡・五葉山・室根高原と7つの県立自然公園が指定されている。

岩手県の動物で忘れられないのが「ニホンカモシカ」だ。奥羽山脈・北上山地に生息している。特に和賀岳と久慈市の遠島山周辺、盛岡市大志田地区などに多い。



岩手県全図



中尊寺 地図P7C1

西磐井郡平泉町平泉字衣関202

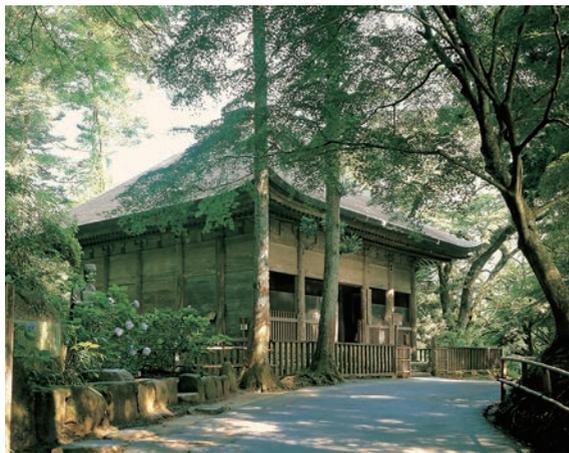
☎0191-46-2211

JR東北本線平泉駅から、中尊寺經由平泉行き中尊寺バス停(所要5分)、参道入口から徒歩15分

天台宗の名刹・中尊寺は、嘉祥3年(850)、比叡山延暦寺の慈覚大師円仁開基にはじまる。大規模な堂塔が造営されたのは、12世紀はじめ、藤原清衡によってである。

奥州藤原氏四代の繁栄の基礎を固めた藤原清衡は、大治3年(1128)73歳で亡くなったという。当時としては長寿だったといえる。彼の前半生は長く続いた戦乱の中にあった。出羽・陸奥を巻き込んだ前九年の役・後三年の役が終わって平和が訪れたのは、清衡32歳の時であった。

2つの大乱によって安倍氏・清原氏という豪族が滅び、彼らの遺領を受け継いだ清衡は、奥州の平和を守り、政権の安定に努めることを第一の責務と考えた。清衡の後半生はこの責務を全うすることに費やされた。



旧覆堂

平泉に拠点を移した清衡は、関山に寺院を建立し、麓の平坦地を整えて、その西に京都の法勝寺のような伽藍を建てる計画を進めた。関山は京都の街を見下ろす仏教の聖域比叡山と見なされたのだ。

中尊寺伽藍の造営は、長治2年(1105)頃より開始され、釈迦堂、両界堂、そして2年後には大長寿院が建立された。藤原氏を滅ぼし、平泉に入った源頼朝が感嘆し、鎌倉に永福寺を建てる時のモデルとしたという二階大堂である。

有名な金色堂が落成したのは、それから17年後(1124年)のこと。清衡は69歳になっていた。そして2年後には中尊寺大伽藍の落慶法要が行われた。実に21年の歳月をかけ、建立された堂塔は40余、僧房300余を数えたという。その後、平泉は二代基衡が毛越寺、三代秀衡が無量光院を造立して仏教文化が花開いた。京を遠く離れ、辺境の地と蔑視されてきた地に、京をしのぐ仏教文化を咲かせることができたのである。

清衡の悲願の結晶である中尊寺は、しかし文治5年(1189)の奥州藤原氏の滅亡

とともに衰退し、火災にも遭って、解体大修理が行われた金色堂のみが創建当初のままの姿を見せている。

悲願を達成した清衡は落慶法要を営んだ2年後(1128年)に亡くなり、金色堂の須弥壇下に葬られた。堂内の壁・柱・組物はもとより、外側にまで金箔を押しした皆金色の堂内には、今も金箔の張った棺の中に清衡・基衡・秀衡三代の亡骸と四代泰衡の首級が安置されている。



金色堂内陣

各壇上には金色に輝く阿弥陀三尊像と二天・六地藏像11軀が死後の平安を守るように安置されている。かつて基衡壇上の1軀が欠けていたが、近年補完された。

昭和26年(1951)指定の国宝建造物第1号の金色堂は、方三間の阿弥陀堂建築で内外を黒漆で塗り、その上に金箔で押したため、金色堂とよばれている。内部の長押、柱、須弥壇には金蒔絵、極彩色が施され、要所は宝相華文を透し彫りにした金具で装飾されている。

現在ではコンクリートの覆堂に包まれているが、創建当初は木立の中にさん然と輝いていたという。いつの頃からか覆堂が造られるようになり、経蔵の右手に立つ現存旧覆堂は、金色堂建立の165年後、鎌倉



新覆堂

幕府の手によって造られたものとされる。

平成23年(2011)「平泉—仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」が世界文化遺産に登録された。金色堂はじめ絵画、書跡、工芸、彫刻、考古、民俗の各分野にわたる3,000余点の国宝や重要文化財を伝える、東日本随一の平安仏教美術の宝庫である。

平泉文化

奥州藤原氏のおこり

(1) 中央と蝦夷

日本統一には西にはじまり、徐々に東へ及んでいった。阿部比羅夫が蝦夷を討ち、秋田地方を大和朝廷に服属させたのは、大化改新後10年余の7世紀半ばのことである。ついで日本海側には出羽国が置かれ、太平洋側に多賀城(宮城県多賀城市)が築かれて、聖武朝を迎える。

この陸奥(現在の東北地方)からは金が産出され、聖武天皇の東大寺大仏造立に900両の金が届く。

すめろぎの御代栄えむと東なる
陸奥山に黄金花咲く

大伴家持
(万葉集)

この黄金花咲く陸奥の征服を目指して、延暦21年(802)の坂上田村麻呂軍まで、18回に及ぶ遠征軍が派遣された。この間帰順(服従)したものは「俘囚」と呼ばれ、武將として征夷軍に加えられるものもあった。

平安朝の勢力範囲は岩手県まで及んだが、



天台寺
聖観音菩薩立像

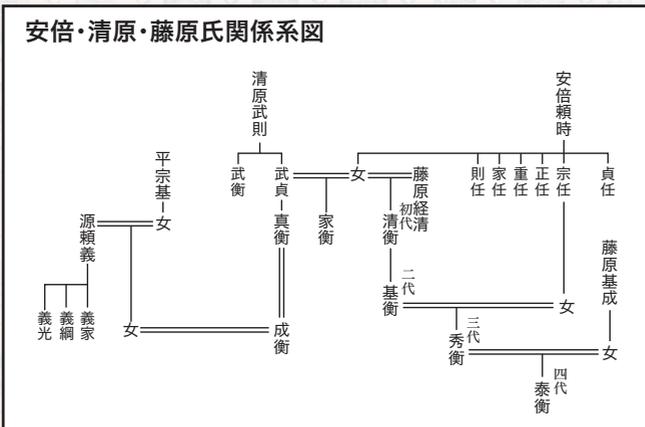
奥州山峠を越えると俘囚長が首長として自由に裁量できる地が広がっていた。そこから、陸奥の安倍氏や出羽の清原氏と言った実力者が台頭してくるのである。

(2) 陸奥六郡と安倍氏の興亡

安倍氏は恐らく10世紀末から11世紀のはじめ頃、奥六郡と呼ばれる胆沢・和賀・江刺・稗貫・紫波・岩手の郡司として勢力をふるった。前九年の役で源義家に滅ぼされるまで、四代約200年もの間、安倍氏の支配は続くのである。

安倍氏の支配地の北辺は、大和朝廷に属さない蝦夷に接している。この国境近くに建てられたのが天台寺だ。天台宗

安倍・清原・藤原氏関係系図



の本山格の名を、比叡山延暦寺は、陸奥の黄金や馬などの贈物と引き換えに与えたのだろうか。堂々たる聖観音像をこの古い寺は今に伝えている。

また岩手県奥州市水沢の黒石寺に残る木造僧形座像、一関市山臥の永泉寺の観音像なども安倍氏時代に造られたとみられる。都と結びついた安倍氏の文化水準の高さがうかがえよう。

(3) 清原氏の登場

鳥海柵・厨川柵など12に及ぶ要塞を築いて陸奥六郡を支配した安倍氏の勢力を抑えるため、朝廷は源頼義を陸奥守として派遣。後述の「前九年の役・後三年の役」の項で詳述するように、前後12年に及ぶ長い戦争の末、安倍氏は康平5年(1062)滅びた。

この戦いで安倍氏を倒すのに力があつたのは源頼義軍ではなく、援軍と赴いていた出羽の豪族清原氏であった。その結果恩賞も鎮守府将軍も清原氏に与えられ、清原氏は陸奥第一の豪族にのし上がった。



黒石寺

西暦	年表	事項
1051	永承6	前九年の役起こる
1056	天喜4	藤原清衡生まれる
1062	康平5	前九年の役終わる。安倍氏滅亡
1083	永保3	後三年の役起こる
1087	寛治元	後三年の役終わる。清原氏滅亡
1095	嘉保2	この頃、清衡ら平泉に移る
1105	長治2	中尊寺一山の建立始まる。この頃秀衡生まれる
1122	保安3	秀衡生まれる
1126	大治元	中尊寺金堂落慶供養行われる
1128	大治3	清衡死去。73歳
1155	久寿2	泰衡生まれる
1157	保元2	基衡死去と伝える。翌年説も
1170	嘉応2	秀衡、鎮守府将軍となる
1180	治承4	源頼朝、伊豆で挙兵
1187	文治3	源義経、平泉に潜居。秀衡死去
1189	文治5	泰衡に攻められ義経自刃 源頼朝、奥州征伐に出発。9月3日泰衡殺され、奥州藤原氏滅亡

しかし清原氏の支配も長くは続かず、20年余の歳月がたち、一族の内紛が生じた。後三年の役と呼ばれる清原氏三兄弟の争いに源義家が加わつたこの戦争も終わってみれば、清衡一人が奥羽の政権を握る結果となった。清衡は実父の姓である藤原氏を

名乗り以後四代100年に及ぶ奥州藤原氏全盛時代の基礎を築いたのである。

藤原清衡とはどのような出自を持つ人であろうか。

清衡は藤原経清を父に、安倍頼時の娘を母に天喜4年(1056)に生まれた。前九年の役で安倍氏に味方した経清は敗れて斬首となり、清衡は母とともに敵方清原武則に引き取られて育つ。母は武則の嫡子武貞の妻となり、

はなまき 花巻

名もゆかしい花巻市は、盛岡と一関からほぼ等距離にあります。JR東北本線に加えて東北新幹線も利用でき、また花巻には空港もあって、東北がとて近くなりました。東北自動車道も花巻市近くを通っています。

市内は稗貫氏の築いた鳥谷ヶ崎城を中心として発展してきました。江戸時代には南部氏が家臣を入れて花巻城と改め城を整備し、以後和賀・稗貫2万石の城下町

として明治に至っています。市役所や鳥谷ヶ崎公園などのある辺りに花巻城がありました。現在の本丸跡は公園になっており、遊歩道が一周まわって、春には桜、秋には紅葉と市民の憩いの場となっています。

花巻といえば宮沢賢治を生み、高村光太郎も住んだ文学の香り高い地として知られています。自然の美しい花巻温泉や、賢治の世界を訪ねる旅は思い出深いものとなるでしょう。

宮沢賢治記念館 地図 P6B4

花巻市矢沢1-1-36

☎0198-31-2319

JR東北新幹線新花巻駅から車で3分。JR東北本線花巻駅から車で15分。同新花巻駅から土沢線イトヨーカドー行バス宮沢賢治記念館口（所要3分）下車、上り坂を徒歩15分。同花巻駅から土沢線土沢行バス宮沢賢治記念館口（所要17分）下車、上り坂を徒歩15分

JR東北新幹線新花巻駅に降り立つと駅前広場に立つ「セロ弾きのゴーシュ記念碑」が迎えてくれる。花巻は宮沢賢治が生涯を過ごした街だ。

「雨ニモマケズ 風ニモマケズ」と始まる文章を自らの手帳に書き付けた宮沢賢治。没後にその手帳が発見され、昭和9

年(1934)「岩手日報」に掲載。誰もが一度は聞いた事のある言葉が世の中に広まる瞬間だった。昭和57年(1982)にゆかりの地、花巻市胡四王山こしおうざんに開館した記念館は、さらに、平成27年(2015)4月25日、展示リニューアルオープン。多彩なジャンルに及ぶ宮沢賢治の世界との出会いの施設だ。スクリーン映像や関係資料を各分野に分類し、解説と作品に至る創作過程、最新の研究成果などを展示紹介して、賢治の全てが分かるよう工夫されている。

すぐそばには、宮沢賢治と作品を愛する人たちにより発表された賢治に関する様々なジャンルの芸術作品、研究論文を数多く収集した文学館・宮沢賢治イーハトーブ館（花巻市高松1-1-1）がある。



宮沢賢治

宮沢賢治のプロフィール

(1) 生まれ育った環境

明治29年(1896)8月27日、宮沢賢治は母イチの実家（現在の花巻市鍛冶町115番地）で生まれた。父宮沢政次郎は現在の花巻市豊沢町4丁目11番地で質・古着商を営んでいた。母方の実家も大きな荒物商で、賢治は幼い頃より富を殖やしていく商人のやり方に心を暗くしていたという。

賢治には3人の妹と1人の弟があった。両親は賢治を大切にすあまり、行儀が悪くなるからといって友達と遊ぶことを許さず、庭で一人で遊ぶことが多かったという。5歳の時、赤痢にかかり、隔離病棟に入院。看病にあたった父も感染してしまうという出来事もあった。



宮沢賢治

羅須地人協会「下ノ畑ニ居リマス賢治」の文字が見える



宮沢家は賢治の生まれる200年以上も前に、京都より花巻に移ってきたことが知られるが、その時からずっと熱心な浄土真宗の信仰が受け継がれてきた。父政次郎は若い頃から浄土真宗の研修会を組織し、著名な講師を招いて合宿講習会を開くという積極的な宗教活動を展開している。賢治は3～4歳の頃、蓮如上人の御文章を暗誦したというエピソードもあって、その宗教的資質や感受性は、彼を取り巻く環境の中で育まれたことがうかがえる

(2) 文学へのめざめ

花巻町立花城尋常高等小学校（入学時は花巻川口尋常小学校といった）を全学年全甲（最優）で通し、明治42年(1909)3月卒業。県立盛岡中学校に進み、寮生活を経験する。

親元を離れた解放感も手伝ってか、岩手山やその山麓を歩いては、植物・鉱物採集や詩作に耽った。中学2年の後半頃から、短歌の制作が始まったとみられる。学業よりも文学や哲学、仏教関係の書物が彼を魅了したようだ。中学4年3学期には寄宿

あとがき

およそ300年前、芭蕉が「奥の細道」に歩を踏み出した頃、今のような自在に快適な旅は望むべくもなかった。彼らをそのような困難な旅へと駆り立てるのは、いったい何だったのであろうか。

古代東北豪族の血筋を引き、都をもしのぐ黄金の仏教文化を築いた奥州藤原氏の栄華。たゆとう北上川の岸辺にたたずみ、郷土への熱き思いを詠った啄木。故郷の地とその人々を心から愛した賢治。豊かな風土が伝えてきた数々の民話。

彼らの情熱と情念、その教えは今も脈々とこの地の人々に受けつがれている。そんな多彩な人物像と歴史・文化の一端を、ご紹介出来たのではないかと思います。各方面からの多大なご協力・ご助力に心から御礼申し上げます。

写真協力

岩手県観光協会、岩手サファリパーク、奥州市立後藤新平記念館、奥州市立高野長英記念館、大船渡市観光物産協会、水沢鑄物工業協同組合、中尊寺、花巻市生涯学習部生涯学習課、東日本大震災津波伝承館（いわてTSUNAMIメモリアル）、平泉文化史館、綜芸文化研究所

*修学旅行等で貸切バス等での団体移動・見学のための編集になっております。
寺院・観光施設の料金・入退場時間などは掲載されていません。ご注意ください。

観光問合わせ先

岩手県観光協会	☎ 019-651-0626
岩手県観光課	☎ 019-629-5574
いわて・盛岡広域観光センター	☎ 019-625-2090

※本誌は、2020年7月現在判明分の資料に基づき編集した最新版です。
本書掲載の地図は、国土地理院発行の地形図をもとに作成いたしました。
本書の記事、データ等の無断転載・複製をお断りします。©ユニプラン 2020

散策&観賞岩手（南部地域）編 ～修学旅行に行く前に読む本～

第1版第1刷 定価 本体510円+税

発行日 2020年10月1日

編集スタッフ ユニプラン編集部

デザイン 岩崎宏

発行人 橋本良郎

発行所/株式会社ユニプラン

〒601-8213 京都府京都市南区久世中久世町1-76

TEL. 075-934-0003

FAX. 075-934-9990

振替口座/01030-3-23387

印刷所/株式会社プリントパック

ISBN978-4-89704-510-8